

## 染色工

H505-01、H557-06等

### どんな職業か

各種の染料、薬品などを用いて、機械装置により糸や織編物に染色整理加工を行う。

糸や織編物は、綿、羊毛などの天然繊維や、レーヨンなどの化学繊維、ナイロン、ポリエステル、などの合成繊維を原料としており、染色整理加工ではこれらの原料に最終用途にあわせた色柄をつけたり、表面を平滑にしたり、手触りをよくするなどの物理的・化学的な処理を施すことから、それぞれ異なった機械や薬品が使用される。

染色工程は、生地を一色に染める無地染と、一色または多色を使って柄染をする捺染（なっせん、プリント）に分けられる。シャツなどのポリエステル織物の無地染では、まず染色機に一定量の水を入れ、機械を始動させ、前工程の精練漂白を終えた生地を機械に入れ、あらかじめ設定しておいたプログラムで自動運転に切り替える。染料と薬品を計量しておく、自動的に染料と薬品が投入されて、染色が行われる。

染色が終わると、サンプルをチェックして、洗浄に移り、染色加工の最終仕上げとして、防縮（縮みを防ぐ）加工、光沢やつや出し加工、防炎加工などが施される。最後に検査工程で生地をチェックし、不良部分を取り除く。

糸の染色整理工程も同様に、精練、漂白、水洗を経て、染色、水洗という順に作業が進められる。毛織物の染色整理加工の場合は、縮絨性（しゅくじゅうせい、毛が縮む性質）があるため特別の方法が必要で、染色工程よりも整理加工工程に重点があるのが特徴である。

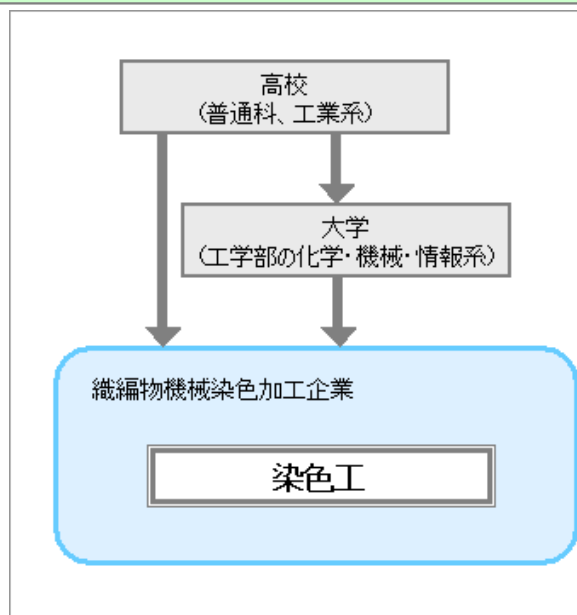
これらの作業は、現在では大部分が電子制御の機械で処理されているが、加工後の微妙なタッチなどは、目や手で判断することも大切な仕事である。

### 就くには

入職にあたって、特に資格や免許は必要とされない。学歴は、現在は高校卒が一般的であるが、情報処理の重要性やメカトロニクス化の進展により労働集約型から知識集約型に変わりつつあるため、大卒者も年々増加している。

求人は学校や公共職業安定所などを通じて行われている。生産現場で多くの化学薬品や機械設備を使用するので、化学系や機械系の学科を専攻し、それらの知識を身につけていれば有利になる。また、美的感性を持つ人やファッション・テキスタイルデザインに通じている人も向いている。

染色整理加工は、素材や色、最終手触りなど、毎回異なった作業であるため、コンピュータ制御が発達した現在でも感性の領域までの制御はできず、微妙な調整をするためには経験を積む必要がある。



### 労働条件の特徴

就業者は男性が7割を占めている。就業形態は正社員がほとんどで、パートタイマーは少ない。年齢構成は、中高年齢者の割合が高くなりつつある。

勤務形態は昼間の勤務が一般的だが、2交替制、3交替制を取っている企業では深夜勤務がある。休日については、通常の週休に加えて、季節によって生産量が変動しやすいため、生産の少ない月に長期連休を設定している場合もある。

外国繊維製品の輸入の増大や、技術革新に伴う染色整理工程の自動化により、染色工の労働需要は減少が予想される。一方で、高級品への生産の移行やコンピュータによる生産・品質・情報の管理やオペレーションが進むことにより、機械や情報処理の知識と高度な感性を持った人材が求められると考えられる。

### 参考情報

関連団体 社団法人 日本染色協会  
<http://www.nissenkyo.or.jp/>

関連資格 染色技能士 公害防止管理者 危険物取扱者